

野の花館だより

2005/冬号 / No.38

2005年も残すところ1ヶ月・・・なんだか飛ぶように日が過ぎていきます。寒くなりましたが、皆さんお変わりありませんか？学童保育がなくなった野の花館は少しさびしそうです。再開を望む声もちらほら聞こえ、その方向も思案中ですが・・・第2・第4土曜には文庫・染色教室など愉しみました。12月もグリーンコ・プの育自グループのもちつき大会や文庫・クリスマス会などでにぎわいます。年が明ければ2月26日にこのところ、隔年にお世話になっている北九州の人形劇団のはなの《あかずきんちゃん》です。生まれて初めて出会う舞台作品として定評があります。ぜひたくさんのお親子に楽しんでいただきたいと思います。年の暮れ定番の花豆も皆さんのお世話になることでしょう。よろしくお願いたします。

野の花館子どものための舞台公演 2005 冬（芸文振助成）

人形劇団のはな(北九州市)あかずきんちゃん 対象3才~おとな(上演時間50分)

小さい子どもからおとなまで みんなで楽しむ
観客とのかけあいがおもしろい 元気が出る
参加型の人形劇です

スタッフ原作=グリム童話脚色/演出=納富俊郎
人形美術=益子淳

平成10年東京都優秀児童演劇個人賞受賞

平成10年中央児童福祉審議会推薦文化財

あらすじ

みんなが良く知っている あかずきんのお話がおかしくて お腹がよじれてしまう
楽しいお話になりました。

今日は おおかみが主役かな？ でも こわくないよ。舞台が 歩いてやって来て すべてを1人で演じます。子ども達とのやりとりが楽しく 会場には 笑いとエネルギーがあふれ心が解放されます。

アンケートより

あかずきんちゃんは、みんなしってるけど、このげきのあかずきんちゃんはげきをみている人しか知らないね。とってもおかしくて、たのしくて、ドキドキしました。(金沢市小学3年)

とても楽しかったです。子どもと一体化して子どももイキイキ、ノビノビ見れました。こういう劇は初めてでしたが、本当に大人の私も楽しませていただきました。もっと長いと良いのにと思いました。おもしろすぎます。(筑後市母)

いいものみ~つけた セリフのない動きで見せる人形劇です

平成10年東京都優秀児童演劇個人賞受賞

スタッフ・作/演出/音楽=納富俊郎 人形美術=益子淳

平成10年中央児童福祉審議会推薦文化財

あらすじ

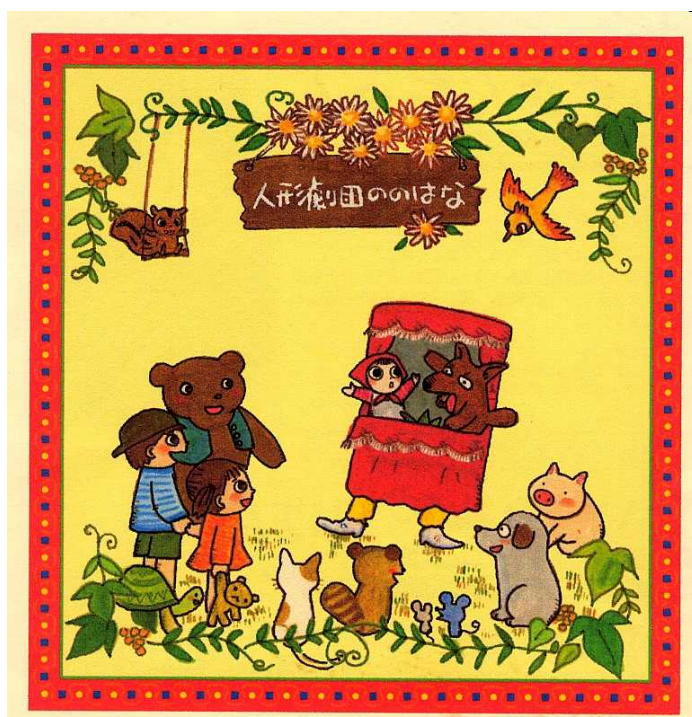
ひとりぼっちのねずみくんが、みつけたものは、がんじょうな箱。
でも、どうやってあければいいのでしょうか？ やっとあけたその中には...！ねずみくんのいいもののおはなし。

アンケートより

ねずみくんのいいものがすごくおもしろかった。びっくりしたりわらったりしました。またみたいです。

(金沢市小学3年)

ねずみちゃんにすっかり魅せられてしまいました。セリフがひとつもないのに、しっかりと劇の世界に浸ることができました。人形のからだや、手の動きがとても良く、子ども達からも、笑いが何度も出ていたので、頭の中で想像していたのだと思います。楽しい劇ありがとうございました。(筑後市 大人)



野の花館子どものための舞台公演 2005 夏

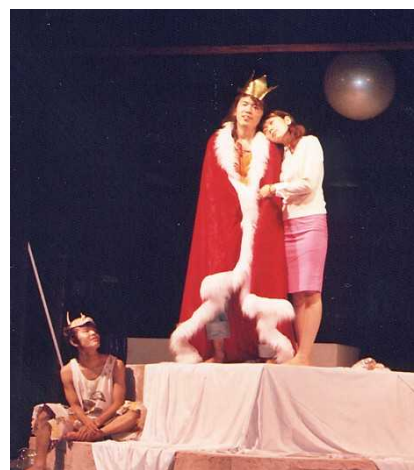
「レオンスとレーナ」・うずめ劇場公演 2005 年 9 月 10・11 日

忘れた頃にやってきた激しい台風のあとで観劇数がいまいちで残念でした。初日に観られた記録作家の川原氏から次のような感想を戴きました。

神楽舞台で演じた西欧劇 川原一之

神秘的な夜だった。うずめ劇場の公演「レオンスとレーナ」を観てから2カ月半たったのに、あの不思議な感動がまだ消えずに残っている。野の花館にせりだした舞台で演じられる劇を、テントをはった庭から見る設定だった。開演まで、土砂降りの雨が激しくテントをたたいた。はたしてセリフが聞こえるだろうか、という不安の中、足元に雨傘を開いて雨のしぶきをふせぎながら、予定通り午後7時に幕があいた。まもなくあがった雨は途中で降りだすことはなかった。

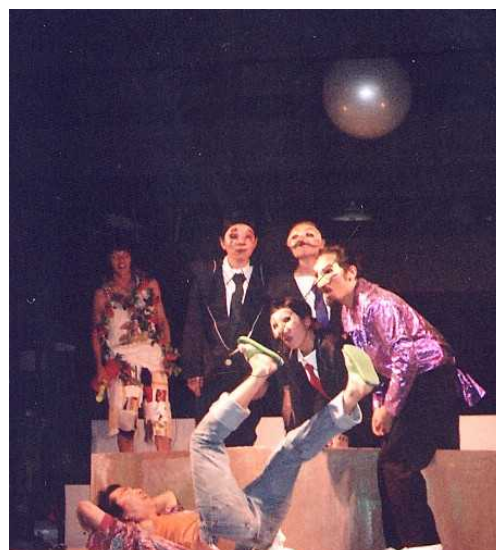
原作は19世紀の初めに書かれた。そのストーリーを芯におき、現代を痛烈に風刺して、観る者を楽しませる。神楽を舞った高千穂の伝統家屋で、仮面を使う西欧劇を演じる。そのとりあわせの妙が、観客をひきこんだ。外からあたるライトが、野の花館の建物の奥の深さを照らし、この劇の底の深さを照らした。夜の舞台が、野の花館の魅力を堪能させた。登場人物は実に多かったのに、終演後に現われた俳優の数が10人たらずだったので驚いた。仮面をかぶって、めまぐるしく演じ分けていたのだ。このことも、あの夜を神秘的にした理由のひとつだった。



左より地曳さん・藤沢さん・後藤さん



土砂降りの中集まった人達



・・・HP 宮崎演劇情報より・・・

・・・さて、役者評だが、まず第一に、ヴァレーリオの地曳宏之が、道化（もしくは従者？）らしい軽妙さで、唯一おとぎ話の枠組みで生き生きしている。

レーナ（後藤ユウミ）の自殺を試みるころの歌の、投げ出したような歌声が耳に残る。

レオンス（藤沢友）は、もう少しメリハリが欲しかったが、この野の花館公演では、豪雨の屋外公演と、昼間の屋外の公演で、狙っていた力配分ができなかったのではないかと。

全体的に、仮面を使った役はコメディ的に大仰な振りが付いているが、それぞれの役の身体表現に、もう一息の色が欲しい。坂本弘道氏の音楽が、フォーク調あり、ラップ調あり、言葉をうまく生かして良い。

世相鋭く皮肉る風刺劇

宮崎日日新聞より

うずめ劇場 主宰 ペーター・ゲスナーさん
主演 藤沢 友 さん に聞く

北九州市の劇団「うずめ劇場」の公演「レオンスとレーナ」は10、11日に高鍋町の野の花館であり、観客は今の世相を鋭く皮肉る風刺劇の面白さを堪能した。公演のために来県した同劇場の主宰者で演出家のペーター・ゲスナーさんと、同戯曲の脚本・演出担当で主演の藤沢友さんに、うずめ劇場の特徴や「レオンスとレーナ」の現代性などについて聞いた。(文化部長・外前田孝)

「レオンスとレーナ」は19世紀初頭のドイツ人作家、ゲオルク・ビュヒナーの作。政略結婚から逃れてそれぞれ出奔したレオンス王子とレーナ姫が、互いに見合いの相手と知らずに出会い、恋をして結ばれる話だ。この古典を、現代的にアレンジしている。王子も王女も今の若者の普段着姿で登場する。

藤沢 うずめ劇場は時代劇的なものをそのまま演じることはせず、現代とのつながりを考えている。例えば、「レオンス」に出てくる王様は下はワイシャツ姿。現代だったら、この人は何に見えるかと発想する。

ゲスナー 今の若者たちは、いわばプリンスであり、プリンセスなのではないのか。何でも買いたいと思えば買える代わりに、何に命とエネルギーを使えばいいかわからず、目的も見つけれない。

ゲスナーさんはドイツで本格的に芝居を学び、演じてきた。なぜ、北九州市に来たのか。

ゲスナー いろんな芝居を旧東ドイツでやっていたが、政治的なタブーがあった。革命でベルリンの壁が崩壊した後、日本か南アフリカに行こうと思った。北九州市に来たのは妻の仕事の関係もあるが、百万都市なら芸術劇場があって演劇の仕事もあると思って。

藤沢 ドイツならパブリックな劇場がいくつもある。演劇人は演劇をやって給料をもらっている。ところが、日本は芸術劇場があっても、ハコだけ。

ゲスナー 日本の芸術劇場では役者とか演出家は働けない。

それで自ら、うずめ劇場を1996年に旗揚げされた。どんな劇団なのか。

ゲスナー 「うずめ」とは古事記に出てくるアメノウズメ。アマテラスが洞窟(どうくつ)にこもって世界が暗く、寒くなったとき、アメノウズメが皆の前で歌って踊った。すると、アマテラスが出てきて、太陽も戻った。ウズメこそは演劇の力を見せる神様。おかしくなった世界をまた普通になるように戻す力、タブーのパワーを持っている。そこに私たちの劇団の原点がある。

うずめ劇場は古典の中に新しさを見いだそうとしているのか。

藤沢 私たちは、昔の人と会話するという違った見方に立つ。

ゲスナー 歴史をすっ飛ばしたような新しさを追い掛けなくてもいいのでは、という立場だ。

くしくも米国同時多発テロが起きた9月11日に公演日を設定した。うずめ劇場は今の世界市場化の時代とどう切り結ぼうとしているのか。

ゲスナー 「レオンスとレーナ」と同時に「ねずみ狩り」という作品も上演している。ごみ捨て場で男と女が出会い、人間のモットーを分かり合うために、自分たちが持っている物が本当に必要かどうか点検する。そして unnecessaryな物は捨てていく。最後は男女とも全裸になる。バランス的に変になっているとき、人間的なバランスに戻すのがタブーのパワー。うずめ劇場は、そのパワーを使って、人間的な空気を立ち上げるために芝居をやっている。



佐藤マリ子さんのバングラ農村

紀行報告から始まりアジア3カ国の子ども事情交流・いろいろびらきコンサート・交流会と素敵な野の花館タイムでした。

《4人の研修員の方々から》

● 日本人達の文化活動について知り得、お祭りを楽しみました。このような交換の場は私達の文化と異なるものを知るよい機会になったと思います。このような行事を主催された方々、又、参加の機会を与えていただいた方々に感謝します。

Md サラウデル・カーン (バングラデシュ)

● このような行事に出席することができ大変うれしく思います。農業経営されているマリ子さんの映像を使ったバングラデシュ農村紀行の話は興味深く印象づけられました。神事も私にとっては初体験で、参加された全ての人たち、全ての日本の人々、又、この祭りに出席をお許しいただき思い出を作って頂いた JICA 関係者の方々へ幸多かれと神に祈ったことです。

Dr.ナズルル イスラム (バングラデシュ)

* 私の印象 - すばらしい。そして心のこもったあたたかい“もてなし”であった。先生と高校生は私たちの国の文化に興味を持ってくれた。日本の文化、又、土呂久の出来事をも思い出させる(複雑な)屋敷。インドの遊びをしようとせがんだ利口な高校生。

素晴らしかったコンサート。すばらしいひとときを持ったことをどう言葉で表してよいかわからなかった。それは素晴らしいコンサートだった。 R.V ロケシュ (インド)

* 野の花館にきて日本の神儀(儀式)を始めて見学することができてうれしく思います。野の花館に来た地元の人たちはとても親切でいろいろ交流できました。そして日本の音楽を聞くことができてとてもすばらしい機会があればもう一度来てみたいです。 羅漢金さん (中国)





佐藤マリ子さん



いろいろ開き・神事

今回（子どもの夕べ2005）開催にあたり、地元県立高鍋高校生の皆さんの

ボランティア参加があり、感想文を寄せていただきました。

- * 今回初めてボランティアというものに参加をしました。たいしたことができなくてボランティアをしたといえるかどうか分からないけど楽しかったです。特に火おこしは面白かったです。でも、火がつかなかったのが残念です。国際交流などもできたのでよかったと思います。（甲佐 和寛）
- * 1度、親と一緒に読み聞かせに来たことがあったので臆げけど少し覚えていました。あの時とあまり変わってなくてうれしかったです。今回、野の花館の建物がどのように作られているかなど野の花館についてたくさん知ることができました。ボランティアと言ってもあまりたいしたことができなくて野の花館の方に申し訳無かったです。子供達とふれ合ったり、外国人の方とお話ができ、とても良い経験になりました。また、行く機会があればぜひ行きたいと思っているので、その時はよろしくお願ひします。（三笠 香）
- * 子どもと接することは、ちょっと難しいと思ったけど、楽しかったです。火おこしでは、道具だけで火がついたのですごいなあと思いました。いろんな話や演奏も聞けたので短かったけど、とてもいい時間でした。参加してよかったです。また、参加できる機会があれば参加したいです。（黒木 隆代）
- * 今日はボランティアということで参加させていただいたんですけど、逆にお世話になってしまいました。ありがとうございました。4人の外国の方とも交流できました。英語を話せるようになりたいと思いました。そしてもっと積極的になれたと思います。これから、しっかり勉強してどんどん交流していきたいと思いました。
最後のコンサートも素敵でした。癒されました。本当ありがとうございました。（黒木 理子）
- * 外国の方と、しかもアジアの国の方と接する機会がめったにないので、貴重な体験ができてよかったです。ありがとうございました。（坂本 明奈）
- * 初めて参加させてもらいました。日頃は外国人の方などと交流する機会がなくて、とても勉強になったし、充実した1日を過ごすことができました。普段できないことなので参加できてよかったです。ありがとうございました。（黒木 恵梨香）
- * 火おこしなど、初めてのことがとても多くて、とても貴重な体験になりました。駐車場の整備など、少しでもボランティアの方々の役に立つことができたので、とてもうれしかったです。ボランティアに参加するのは初めてだったけど、楽しくできたと思います。また機会があれば、参加したいと思います。（半渡 大海）

野の花館は子どもの居場所・・・

親子のためのにぎやかライブ 9月23日（賛助会員井上さん達実行委員会主催）

9月23日、野の花館で『親子のためのにぎやかライブ』行われました。「素」の歌、アコーディオン、ピアノ、コントラバス、ダラブッカ（中東の太鼓）、カリンバによるライブ、「バロン」のバントマイム（屋台ラーメンのおじさん版）とタップダンス、そして最後に大きな新聞紙をみんなでビリビリに破って大雨を降らせ、1時間半のライブはあっという間に終わりました。子どもの年齢が低かったり、元気すぎる（！？）子どもを持つ親が、人に迷惑かけないかなとハラハラしなくてもいい、親だけでなく、子どもだけでなく、どちらもグイッと心を惹かれウキウキと楽しくなるようなライブが出来ないかな・・・との思いつきで企画しました。ライブが終わってもう2ヶ月以上も経つのに、参加してくれた子ども達が時々、素の音楽を「タ～ラララ～ラ～」と口ずさんでくれます。それを聞くたびに、企画した者として、とってもうれしく、しめしめ～と思います。またこんな風に野の花館のゆっくり流れる時間のなかでライブをにぎやかに楽しめたらいいなと思います。野の花館のご協力ありがとうございました。参加して下さったたくさんの方、ありがとうございました。（井上 志保）



演者の皆さん



愉しむ子ども達

共同保育園どろんこ 一日保育実施 11月11日（金）

・・・野の花館にて・・・

野の花館と縁の深い宮崎市のどろんこ保育園に長男を入園させて4年経つのですが、なぜかおとずれる機会を逃していたようです。今回2回目なのですが、とても素敵なおとずれ場所で一度で大好きな場所となりました。最初に子ども達とやってきた時は大雨の日で宮崎から車の運転に緊張して、少々疲れ気味で到着したのですが、静かなたたずまいがやさしく私達を迎えてくれました。広～い空間は20人の子ども達が十分に遊ぶ、絵本を読んだり、大きい子ども達はざぶとん取りゲームをして遊びました。軒からおちる雨が土の上に一本直線を形づくり...「雨だねー」「いっぱいふってるねー」「あっかぼちやがあるよ」と子ども達のおしゃべりもはずみました。日頃から自然に親しむことを大切に子ども達と過ごしていますが、野の花館で遊ぶ子ども達を見ているといつまでもこのような場所があってほしいなあと思いました。2回目は秋晴れの日でまわりを散歩しました。のどかなひとときをゆっくりした流れのなかで過ごし、道ばたにすわりこんで草花をつんだり、木になってるみかんを「食べたなら甘いかなあ」とながめたりしました。むかごとりも子どもより大人の方が夢中になり楽しみました！お弁当を食べてあたたかなひだまりでおひるねしてしまう子どももいました。とてもステキな一日でした。本当にありがとうございました。これからもちょくちょく遊びにこさせてくださいね（児玉 麻由子）

染色教室 パート2 秋のいろを染めよう 11月12日(土)

さる11月12日土曜日に染色教室を行いました。秋の植物から黄(背高泡立草) 茶(栗のいが) 青(臭木の实)の3色をいただいて絹のハンカチを染めました。どの色もふんわりとやさしくまるで晩秋の宮崎の日だまりの空気をうつしとったかのようなでした。参加された方々、それぞれに工夫をされて個性的なしぼりの模様も入り、世界に一つのすてきな作品がたくさんできあがりました。昨年と同じく今年も快晴だったので屋外での染色でした。まきにする竹や木をわったり、火付けは則松さんや(北海道の)川口さんにやっていただきました。3つのかまどで大量の湯をわかしたり植物を煮出したりする作業は野の花館でなくてはなかなかできません。かまどでいっしょに焼いたおいもをほおぼりながら楽しい一日をすごしました。(伊藤 美穂子)



北の果からのお客様・川口先生も一緒に・・・セイタカアワダチソウを染める。

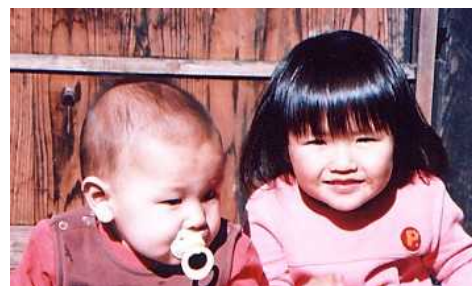


育児だより

* ちなぼん日記 改め かんきつ姉弟(千夏と朔巳なので) *

金丸 智子

朔ははいだったので、ぐ〜んと行動範囲が広がり小学生の新たな脅威となっている。
又ちいがパンツトレーニング中で、どこに爆弾を落とすかわからない、というスリルにもあふれている。こどもがいっぱいる生活はとてもおもしろい、私は根が大ざっぱなせい、かなり雑な暮らしをしていて、その中で育つ子らは皆たくましい、これでいいかと思える様になったのは、一人目を産む前から通っていた「どろんこ」のおかげ、保育の有り方は実に大らかで「～せねばならない」というコチコチの考え方を根本から変えてくれた。外から見れば鼻水たれのどろまみれで来たないかもしれないが、太く育っている気がする。現に上の二人はユニークとよく言われる。親子ベタベタの暮らしもいいとは思うけど、たくさんの兄弟関係の中で、自分でやる、という力を身につけていってほしいと思っている。
(その方が私に都合がいい、というだけなのよ、ホントは)



朔巳くん

千夏ちゃん

事務局日誌より

- 9/3(土) 「宮崎の自然と未来を考える会」との交流会
10(土) うずめ劇場「レオンスとレーナ」公演
11(日) " 105名参加
16(金) 9月定例会
20(火) 西都愛育幼稚園 園外保育
23(祝) 親子のためのにぎやかライブ
10/15(土) みそづくり
21(金) 10月定例会
29(土) 子どもの夕べ 2005 いろいろびらき 71名
11/4(金) 川南幼稚園 合宿
~5(土) "
10(木) 11月定例会
11(金) 共同保育園どろんこ 日帰り合宿
18(金) "
12(土) 染色教室
22(火) 川南幼稚園
26(土) 野の花文庫



朝になってかまどが無い???
レンガを積み上げ立派に出来ました。!!
味噌豆を炊く・・・いいにおい!!!

「野の花館と未来」 森田 暢(南九州大学4年生)

私は、野の花館に来てまだ間もないですが、子供たち、地域の人々とふれあい日常ではなかなか味わうことのできない貴重な体験をさせていただいていることに感謝をしています。ふだん私の場合は大学、大人の方々は会社などといった活躍の場で人生の多くの時間を多種の価値観を持った方々と過ごされているのが普通でしょう。

しかし、そんな中でも素直に他人に自分の心をさらけ出せぬままの人、心をすぐに傷ついたりする人も多いはずで、実際、自分自身もわからないことだらけでときとして思い悩むことも多いです。でも、野の花館は、そんな日々を忘れさせてくれる最高の場所です。自然に囲まれた空間の中で、無邪気にはしゃぎまわっている子供たちをみていると昔に帰った気持ちになり、自分も子供たちと一緒に笑ったりできるし、ふざけたりもする。そんな子供の姿は多くの人々を癒してくれる。もう今年で24歳を迎えた私も、あと6年で30歳になり子供がいる年になる。「第二世代を背負う僕たちにとって人々の絆は、自分を救う上でも、他人を救う上でも大切なこと。」その考えはかつて日本人が持っていた精神、アメリカ化してきている日本では、忙しい日々を追われている方々が多い、心のケアを必要とする方々、未来の子供たちをこれからもサポートする場所としてもおおいに野の花館が繁栄するよう自分も一緒に参加していきたいです。

野の花館へのご支援感謝します!

井戸川貞子、注連本三穂子、川原一之、川南幼稚園、永崎 翠、川辺 薫、岩切三代子、小村三郎、戸田由紀子、梅津貞夫、黒岩共一、岡山 勇、野津手晴男、前 良子、松田恵美子、新城睦子、小柳由里、五十嵐陽子、岩村正清、黒木啓純、橋口巳俊、岡田心平、神野香久子、友成昌亮、川崎美智子
2005年度分会費、寄附金をよせてくださったみなさまです。[順不同、敬称は省略させていただきました]

毎年、花豆をお買い上げいただき感謝しております。益金は全て野の花館へご寄付戴いております。今年もよろしく願いいたします。皆さん良いお年をお迎えください。

ご意見ご感想ご質問などお寄せください。

宛先: 特定非営利活動法人 野の花館

〒884-0002 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 2664

phone & fax;0983-23-0701